



・1コース 南の島

- ①-1 カラスバト
- ①-2 リュウキュウツバメ
- ①-3 シロガシラ
- ①-4 キノボリトカゲ
- ①-5 オキナワチョウトンボ
- ①-6 アフリカマイマイ
- ①-7 サクラツツジ
- ①-8 リュウキュウシャジン

このコースでは南西諸島など南の島々で見られる動植物を調べます。他のコースと同様、調査対象種の分布そのものだけでなく、調査結果から南の島々の貴重な自然環境の移り変わりを知ることができます。

カラスバトやキノボリトカゲは森林で見られますが、自然性の高い森林の減り具合が心配されます。また、オキナワチョウトンボは、平地の池や湿地の周辺で見られますが、水生植物の豊富な場所に限られるので、こちらも近年は少なくなっています。

一方、シロガシラは農耕地などで見られだんだん増えているようですし、リュウキュウツバメは「ツバメコース」のツバメ3種とあわせて、調査結果が楽しみです。逆に帰化動物のアフリカマイマイは、どの程度分布を広げているのか気になるところです。

植物はサクラツツジとリュウキュウシャジン調べます。2種とも見分けが少し難しいですが、じっくり観察して報告して下さい。

南の島にはたくさんの生きものがすんでいます。彼らの生活を脅かすことなくそっと観察すればいろいろな新発見があるでしょう。



カラスバト

● *Columba janthina janthina*

■かたちと大きさ

全長40cmと街なかで見るとハトよりも大きい、全身黒色のハト。

■見られる場所

海岸や島の常緑広葉樹のよく茂った林。

■くらし

常緑広葉樹林でツバキやタブなど木の実、花などを食べる。

林内からはあまり出ないので、姿を見ることは少ないが、「ウー、ウー」という牛のような声は離れていてもよく聞こえ、ウシバトという別名がある。

常緑広葉樹の森林の減少によって数が減っていると言われている。



■おもな分布地

本州中部以南の海岸や島で、常緑広葉樹の自然林のある所。

■見つけ方・見分け方

声をたよりに探そう。声のする木の葉の間を探すと、枝の上にいるのを見つけてることができる。また、暗い林のなかを通る道では地面に降りていることもある。





リュウキュウツバメ

● *Hirundo tahitica namiyei*



■かたちと大きさ

全長13cmの小型のツバメ。額ひたいと喉のどはツバメと同じくアズキ色だが、尾羽の切れ込みは浅く燕尾にはならない。腹も灰褐色で全体に黒っぽい

■見られる場所

村落周辺の水辺や畑など開けた場所。

■くらし

留鳥として南西諸島以南に生息し、人家や橋の下など人工建築物に、土や枯草で巣を作る。水田や草原、水面を飛びながら昆虫を捕まえて食べ、電線や屋根ひさしの庇にとまって休む。



■おもな分布地

奄美諸島（奄美大島、徳之島、喜界島）以南。

■見つけ方・見分け方

水面や草原で飛んでいる姿や、電線にとまっているところを探そう。ツバメの仲間は何種類もいるが、喉が赤いのはツバメとリュウキュウツバメだけ。尾羽が短くて、腹が黒っぽいければリュウキュウツバメである。

姿を見つけたら飛ぶ方向に注意して巣も探してみよう。



シロガシラ

● *Pycnonotus sinensis orii*

■かたちと大きさ

全長18cmの小さい鳥だが、黒い頭部は目の上から後頭部にかけて白く、よく目立つ。

■見られる場所

村落近くの農耕地など開けた場所の林。

■くらし

昆虫や木の実を食べる。開けた場所を好み、枯れ枝や電線など目立つ所にとまり「キョッキョッ、キュロロ」などとにぎやかに鳴く。



■おもな分布地

沖縄南部から東南アジアにかけて広く分布する。

日本では石垣島以南で繁殖していたものが、近年沖縄島南部で増加している。

沖縄島での分布域や南西諸島での分布の変化が目される。

■見つけ方・見分け方

電線や木の枝を注意して探してみよう。後頭部の白斑は遠くからも目立つ。飛ぶときには浅い波を描くので、飛ぶ姿にも注意しよう。





キノボリトカゲ

● *Japalura polygonata polygonata*



■かたちと大きさ

全長15～20cmで、その2/3が尾の長さ。頭が角ばっていて大きく、頭の後ろにトサカのような鱗うろこの列がある。手足は長く、胴は背腹に厚みがある（他のトカゲは胴が平たいものが多い）。

体の色は緑色、黄褐色、褐色で、オス・メスや島によって少しずつ異なり、また同じ個体でも色を変えることができる。

■見られる場所

森林にすみ、木の周辺でよく見られる。人家付近では庭木、生け垣、ブロック塀などによくいる。

■くらし

日中に活動し、夜や雨の日には葉の陰などで休む。クモや昆虫などの生きた虫を食べ、夏に1～4個の卵を産む。

■おもな分布地

奄美諸島、沖縄諸島、先島諸島。

■見つけ方・見分け方

木の幹や枝にとまってキョロキョロ

こちらを見ている姿を探そう。じっとしていると木のこぶのようで正面からはわかりにくい。木の両側にとまっているのはシルエットでもわかりやすい。

幼体は全体に褐色で、木の根元や林床など、成体よりも低い場所で活動していることが多い。

うなじに「トサカ」のあるトカゲは、日本には他にいない。





オキナワチョウトンボ

● *Rhyothemis variegata imperatrix*

■かたちと大きさ

体長は35～40mm。シオカラトンボと同じぐらいだが、シオカラトンボとくらべて体より翅^{はね}が大きい。

体は光沢を持った黒緑色で複眼は茶色。翅は黄色の地に雲形の黒から褐色の紋があり、この模様は個体によって変異がある。前翅より後翅の方が極端に幅が広い。

■見られる場所

平地の水生植物の豊富な池沼、湿地、水田、小さな流れのある溝や川など。

■くらし

4～10月中旬に現れる。水辺近くの植物の葉先や林間の梢にとまっていたり、上空をチョウのようにひらひらと舞い、群飛することもある。

■おもな分布地

沖縄島以南の島々に分布するが、奄美諸島の徳之島、沖永良部島でも記録されている。



■見つけ方・見分け方

植物の豊富な池沼などの水辺で、黄色と黒のまだら模様の翅を持った、ひらひらとチョウのように飛ぶトンボを探そう。ゆっくり飛ぶので長い時間観察できる。

■注意

本種をベッコウチョウトンボと呼ぶこともある。





アフリカマイマイ

● *Achatina fulica*



■かたちと大きさ

日本では最大のカタツムリで、殻は長卵形で高く(細長く)、殻高(貝殻のどがった端から反対側の端まで)10cmぐらいある。殻は大きくて光沢があり、薄い皮がかぶさっている。殻の外側は褐色で縦縞たてじまがある。殻の内側(死殻で確認できる)は白い。ふたはない。

■見られる場所

山林、原野、畑などにすむ。

■くらし

日中は草の根元や板の下などの物陰に隠れていて、夜になると出てきて植物などを食い荒す。雨が降ったりすると、日中でもはいまわっていることがある。

■おもな分布地

東アフリカが原産地で、日本では南西諸島や小笠原諸島に帰化している。

■見つけ方・見分け方

雨の夜などは路上などでも見つけやすい。ゴミ捨て場などの生ゴミのある

場所に集まっていることがある。他のカタツムリより飛び抜けて大きいので見分けやすい。

■注意

ヤンバルチンナン・タイワンチンナン・アフリカチンナン・シヨクヨーチンナンなどの方言で呼ばれている。方言の一つにあるような食用とするのは誤りで、食べて中毒死した例もある。また線虫などの寄生虫の中間宿主ともなり、危険。

農作物にも被害を与え、本来の自然を破壊する。いなかった地域へ運ぶようなことは絶対にしてはいけない。





サクラツツジ

●*Rhododendron tashiroi*

■かたちと大きさ

地際から枝分かかれし、高さは大人の背丈から5mになる。枝先の1つの芽から2つまたは3つの花がほぼ同時に咲く。葉も枝先にふつう3つ（まれに2つ）ずつ集まってつく。

■見られる場所

常緑樹林のなかの、流れの縁や崖などの斜面。

■くらし

花は2～5月にかけて咲く。花の色は名前のおり桜色。

■おもな分布地

これまでの情報では、奄美大島、徳之島、沖縄島、久米島に分布していることがわかっている。

■見つけ方・見分け方

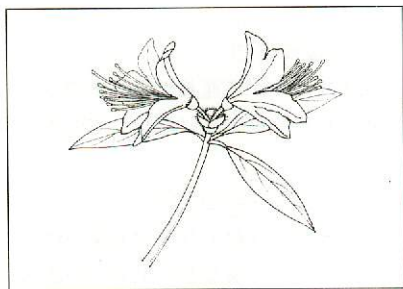
南西諸島にはサクラツツジに似た、セイシカ、アマミセイシカ、サキシマツツジ、ケラマツツジ、シナヤマツツジ（トウサツキ）というツツジの仲間の種があるので、注意深く観察してし



っかりと区別しよう。

サキシマツツジ、ケラマツツジ、シナヤマツツジは、春に出た大きめの葉の他に夏以降に出る小さめの葉があることで区別できる。

また、セイシカ、アマミセイシカは花芽と葉芽の位置で区別できる。サクラツツジが枝の先端に花芽ができ、その下方に葉芽がつくのに対し、セイシカ、アマミセイシカは逆に、先端に葉芽が、その下方に花芽がつく。さらに、葉の柄の長さの違いがあり、サクラツツジの2～4mmに対し、他方は7～15mmである。





リュウキュウシャジン

● *Adenophora triphylla* var. *insularis*

■かたちと大きさ

高さ20～60cmになる多年草。茎は上方に向かってまっすぐに伸びる。葉は3つまたは4つずつ輪状に茎につくが、2つや1つの場合もある。葉は細長い楕円形で、長さ4～8cmになる。花は茎の上方に集まってつき、つりがね型でやや下向きに咲く。

■見られる場所

日当りの良い、原野や山野の道端。

■くらし

花は3～7月にかけて咲く。花の色はうすい青紫色。

■おもな分布地

これまでの情報では、奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄諸島に分布していることがわかっているが、個体数は少ないようである。それだけに、今回の調査の結果が注目される。

■見つけ方・見分け方

ふつうの植物図鑑にあるサイヨウシャジンやツリガネニンジンに似た植物



を探そう。

リュウキュウシャジンは、全国に広く分布するツリガネニンジン（サイヨウシャジン）の南西諸島型なので、南西諸島で似たものが見つかったら、それがリュウキュウシャジンということになる。全体として個体数は少ない。

■注意

シマシャジンと呼ぶこともあるが、九州福江島には同じ名前のまったく別の種（同名異種）があるので、注意が必要。また、庭植えにすることもあるので、これにも注意しよう。

